資料２

○事業内容の検討について

区分	課　　題
人工林整備事業	○事業開始以降、木材価格の下落等による採算性の悪化が進んでおり、森林所有者による整備がますます難しい状況となっている。このため、遅れている奥地林の間伐の推進に取り組むとともに、対象要件の緩和などにより、幅広い森林の間伐の推進を検討していく必要がある。 ○国道、県道等の公道は、山間地域の重要な生活基盤であるため、ライフライン確保を目的に、スギ、ヒノキ人工林に限定せず、**公道沿いの全ての森林を一体的に整備**する事業の検討が必要である。
里山林整備事業	○将来にわたる継続的な管理や関わりのためには、地域や活動団体等の主体的な活動が重要であり、ハードの整備事業と連動して継続的活動に向けた支援等のソフト事業の検討も必要である。 ○地域の意向に沿って継続的な里山林の管理を進めるためには、民有林、公有林等にかかわらず**幅広い森林での事業展開**が必要である。特に放置竹林やナラ枯れ被害が大きな問題であり、放置竹林、侵入竹林ともに**初年度の駆除には多大な経費**がかかることが明らかになってきたことから、現場に応じた事業の仕組みの検討が必要である。
都市緑化推進事業	○地域の実情にあわせた多様な緑の確保のため、**対象基準の緩和や公共施設緑化、軌道緑化等**の新たな取組を検討するとともに、より一層県民参加を進め身近な取組とする必要がある。また、**放置竹林やナラ枯れ被害対策**は、都市の緑を守り健全化を図る観点から、取組の強化を検討する必要がある。 ○現地や目的等を勘案の上、生物多様性への配慮や、**生態系ネットワークの取組との連携**など、より質の高い緑の確保を図るような進め方の検討が必要である。また**整備のみでなく適正な維持管理**を行うとともに継続的な緑の確保につながる取組とする必要がある。

環境活動・学習推進事業	○森と緑づくりへの理解促進や県民の参加交流を促す効果的な取組であり、森林・里山林の整備、都市緑化等と連携した取組を積極的に仕組む等、**より広がりと深みを持たせながら発展**させる必要がある。また、生態系ネットワークの取組との連携をより密にしていく必要がある。 ○活動をより活発にするため **NPO 等が取り組みやすい制度の検討**とともに、内容と効果を評価し、**より質が高く効果的な取組となるよう検討**が必要である。また情報発信等を積極的に進め、**多くの県民への関心や参加交流につながるような取組とする必要**がある。
木の香る学校づくり推進事業	○森林整備の意義や木材活用効果の普及、木の良さを感じてもらうためには、机、椅子等の木製品の導入にこだわらず、学校内でさらに木材利用が図られるよう支援することで、より有意義な事業となるよう検討が必要である。 ○学校の先生方に対して事業の意義や森と緑の大切さを普及することや、学校で行う環境に関する学習をサポートすることも併せて検討していく必要がある。
新たに加える視点、重要な視点	ア　木材利用 　あいち森と緑づくり事業は森と緑の持つ公益的機能の発揮を目的とした取組であるが、特に木材利用にかかる次のような様々な提案、要望があるので、**木材利用の促進**を新たな視点として加えた事業展開の検討が必要である。 ・木製品利用により木に触れる機会の拡大 ・木材利用により森林への関心を高める ・公共施設等への木材の利用 ・間伐材、木質資源の有効活用 イ　生物多様性 　公益的機能を発揮させるために森と緑の整備、保全を進め、良好な状態で将来に引き継いでいくためには、その基盤として生物多様性の確保が重要である。計画に基づく森と緑づくりを進める中でも、**常に生物多様性の確保等を意識し、質の高い緑の確保や活動を進める**よう事業展開が必要である。

事業の進め方	○透明性を確保し適正に事業を実施するとともに、県民の理解と参加により事業を進めるために、取組や成果の積極的な情報発信、森や緑の役割、整備の必要性についての理解や県民参加の促進にさらに努め事業を進めていく必要がある。また、各事業、部局が連携し、一体となって効果的な事業の推進を図り、質の高いあいちの森や緑の確保につなげなければならない。 ○これまで実施してきた実績や取組状況等を毎年取りまとめ公開することや、森や緑の役割や整備の必要性の理解促進のための環境学習、現地見学や体験をする体感ツアー、県民参加の取組に加え、各事業を連携させて取組や成果を積極的に情報発信する機会をつくる等、さらに多くの県民の理解や参加を促進し事業を進める必要がある。 ○森と緑づくりの取組を進める中で、これを契機に自主的な活動や地域づくりの動きも出ている。森と緑づくりを将来につなげ効果的なものとするために、**地域づくりと連携した事業展開**等の検討も必要である。 ○計画に基づき透明性を確保し適正・確実に事業を実施しなければならないが、事業を進める中で点検しながら状況に応じて改善を加えていくことも必要である。また、**スギ・ヒノキ人工林を広葉樹に転換する取組**や天然記念物、文化財等地域のシンボルや景観を活かすための森林整備など、各方面から様々な取組の要望や意見が出されており、これらについて事業の理念、目的を鑑みつつ事業に組み込む検討や、アイデアや自主的な活動を吸い上げ様々な提案に対応するような仕組みの検討も必要である。